

のりみが行く!!

横浜市決算特別委員会で教育委員会の局別審査で岡田教育長と一問一答しました!

のりみ vs 岡田教育長



市政報告

課題となっている学校施設の外壁等の落下防止や和式トイレの洋式化

「学校施設の外壁と窓ガラスの落下防止対策の取組状況について教えてください。」

「老朽化の進んでいる学校を優先して、外壁・窓サッシの改修を毎年20校程度、実施しております。あわせて、飛散防止フィルムの改修につきましては、22年度から、より効果のある強化ガラス又は網入りガラスへの交換を進めており、27年度末までに311校で交換が完了いたしました。外壁や窓サッシなどの非構造部材の落下防止対策は、安全対策の観点から重要であると考えていますので、劣化状況を継続的に点検しながら、今後も優先的に対策を進めてまいります。」

「和式トイレの洋式化の取組状況と今後の進め方についてはいかがでしょうか?」

「和式トイレ全体の洋式化率については、27年度末で約72%です。28年度は、洋式化率が概ね20%から30%台の低い学校を優先し、98校で改修を進めております。今後は、トイレの洋式化による教育環境への効果を、教職員を対象としたアンケート等を行うことにより検証し、その結果を参考にして、より効果的なトイレの整備を進めていきたいと考えております。」

子どもたちのネット利用における問題と取組

「スマートフォン等で子供達の間にはトラブル等が生じているときいています。実際にネット利用で子どもたちに生じている問題について具体的に教えてください。」

「子どもたちに生じている問題には、例えば、長時間のネット利用や、友達からのメッセージを常に確認するためにスマートフォンを手放せないなどの「ネット依存」、無料通話アプリで特定の友達を無視するよう呼びかけて、仲間外しを行うなどの「ネットいじめ」があります。また、ネットでお互いの気持ちがうまく伝わらずに誤解が生じたり、ネット上に書き込んだ内容が原因で、相手と喧嘩になるなどのトラブルが発生しています。さらには、個人情報が悪用されたり、ネットで知り合った人から性犯罪に巻き込まれたり、画像を送った後に脅迫されるなど、犯罪被害に遭ってしまうことなどがあります。」

「ネットの適切な利用に関する各学校での学習もしくは取組についてはどのような状況でしょうか?」

「各学校では、教科等の内容と関連付けながら、情報通信技術の仕組みや情報モラル・マナーについて学習しております。例えば、小学校では、道德の時間などにコンピュータや携帯電話などの適切な使い方について話し合ったり、中学校では、技術・家庭の技術分野で、情報通信ネットワークの仕組みや、情報セキュリティ技術を学ぶ中で、インターネットのプラス面やマイナス面など、情報モラルについて学んでおります。」

「スマートフォンなどの学校への持ち込みについてはいかがでしょうか?」

「本市では、学校、保護者、警察、専門家、関係団体等が協議し、20年10月に、家庭や学校・地域・行政・事業者等が連携して取り組む内容を『横浜「ケータイ・ネット」五か条』として提言しました。この提言や文部科学省の通知を受け、全ての市立の小中学校で、学校へのスマートフォン等の持ち込みは、「原則禁止」としております。」

「安心・安全にネットを利用するための今後の取組について教えてください。」

子どもたちが安心・安全にネットを利用するために、学校での情報モラル教育を一層推進していきます。また、購入者である保護者に対しては、「保護者向けリーフレット」を配布し、入学説明会や保護者会等の機会に、子どもとしっかり話し合うことや、家庭でのルールづくりを促すことなど、啓発を引き続き行ってまいります。また、ネットの利用は、スマートフォンを使う子どもたち自らがその問題について考え、取り組むことが何よりも大切だと思います。今年度、生徒同士の話し合いによる「スマホ・ケータイのルールづくり」を進めている中学校もあります。これをモデルにした、子ども自らが考えるルールづくりが全市に広がるよう推進していきたいと思っております。」

「特別の教科 道德」の先行実施へ向けた取組

「道德の先行実施へ向けた準備状況について教えてください。」

「先行実施に向けて、これまで、新しい学習指導要領に示された道德教育の目標や学習内容、子どもが切実感をもって主体的に学ぶことができるような具体的な授業づくり等の研修を行ってまいりました。これらを踏まえ、各学校では、重点目標や年間指導計画の作成を進めるとともに、道德教育推進教師を中心に校内研修を実施するなど、授業力の向上にも努めております。今後、評価についての研修なども行い、先行実施に向けた準備を進めてまいります。」

「道德の先行実施にあたっての教材の取扱いはあるのでしょうか?取扱いがあるとしたら選定予定の教材を教えてください。」

「教科書の使用が開始されるまでの間は、文部科学省が全児童・生徒に配付しております「わたしたちの道德」を準教科書として使用していきたいと考えております。また、各学校の実態や地域の資源などに応じて、本市独自で作成している副読本や、神奈川県が作成している教材などを副教材として選んでいきます。」

「道德の先行実施へ向けた決意をお聞かせください。」

道德は、国語や社会などの各教科とは別の枠組みによって教科化され指導内容が充実します。効果的な指導方法を明確化し、全ての教員が習得できるようガイドブックを作成しているところです。道德の教材として、横浜ゆかりの具体的な人物や地域、日本の伝統と文化に根ざす題材等を重視しながら授業を展開していくことを目指しています。道德が教科化されることを機会として、子どもたちが多様な価値観の、時には対立がある場合も含め、誠実にそれらの価値に向き合い、道德としての問題を考え続ける姿勢を身に付けていけるようにしっかりと準備を進めて、29年4月からの教科化 先行実施に臨みます。」

小中学校での発達障害児への対応

「発達障害児の小学校入学前からの幼稚園や保育園等との連携についてお聞かせください。」

「26、27年度の2か年で、各方面別の小学校4校において、特別な支援が必要な子どもの幼稚園・保育園と小学校との連携について検討いたしました。検討の結果、小学校で特別支援教育コーディネーターを担う教員が、幼稚園、保育園等からの必要な情報を把握し、入学当初から子ども達一人ひとりの状況に応じた指導に活かせるようになってきています。」

「発達障害児の小学校入学前からの幼稚園や保育園等との連携についてお聞かせください。」

「26、27年度の2か年で、各方面別の小学校4校において、特別な支援が必要な子どもの幼稚園・保育園と小学校との連携について検討いたしました。検討の結果、小学校で特別支援教育コーディネーターを担う教員が、幼稚園、保育園等からの必要な情報を把握し、入学当初から子ども達一人ひとりの状況に応じた指導に活かせるようになってきています。」

「発達障害児の対応における教員への支援体制についてはいかがでしょうか?」

「小・中・義務教育学校すべてに、教員が兼務する特別支援教育コーディネーターが配置されており、担任教諭の相談などを受けております。また、校内委員会で、個々の児童生徒の指導計画について検討するなど、学校全体で担任教諭を支えています。さらに、学校からの要請に応じて、特別支援学校や通級指導教室の教員が、障害に関する専門性を活かし、教員への支援を行っております。」



「一般学級における子どもたちへの具体的な支援内容についてもお聞かせください。」



「一般学級では、発達障害の診断の有るなしに関わらず、少人数学習や複数教員による指導など、指導方法を工夫し「すべての子どもがわかる・できる授業づくり」に取り組んでおります。しかし、集団学習に馴染めず、教育的効果が十分に上がらない児童生徒につきましては、すべての学校に設置している「特別支援教室」を活用し、取り出し授業を行うなど、その子どもの特性に合った学習方法を、各学校の実情に合わせて、工夫して取り組んでおります。」



「発達障害児への支援において、今後はどのような方向性でお考えでしょうか？」



「学校の教職員が、全ての子ども達一人ひとりの特性に応じた、適切な指導を行えるよう、引き続き、学校現場をしっかりとサポートしていきます。また、発達障害のある児童生徒は、コミュニケーション力や社会性に課題がある一方で、相当に高い知力を有していたり、芸術やスポーツなど、特定の分野において、非常に高い能力を発揮する子どもも少なくありません。子ども達一人ひとりの才能や能力を見極め、それを引き出し、伸ばす教育の在り方についても検討していきたいと考えています。」

日本語指導が必要な児童生徒への支援



「全国及び本市における日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況について教えてください。」



「平成26年に国が行いました「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」によりますと、全国の小中学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒は26年に約34,000名となっており、24年と比較しまして約1割増加しております。本市では26年の在籍が1,444名で、24年と比較しますと約2割、毎年100名程度増加しております。本市の特徴といたしまして、日本語指導が必要な児童生徒が集中して在籍する学校での急増と今まで在籍のなかった学校への編入が増加するという、いわゆる集住地域と散在地域での増加が同時に進行していること、また、そうした児童生徒が99もの国と関係するという多様性が挙げられます。」



「他都市における拠点施設の取組についてはどのようなものがありますか？」



「他都市での取組として、愛知県西尾市では学校施設を活用した拠点施設、岐阜県可児市や三重県松阪市では学校以外の施設を活用した拠点施設の取組を行っています。いずれの施設も、日本語指導が必要な児童生徒が集中して在籍している地域での対応として、初期日本語指導や学校生活への適応支援などを行っています。」



「本市での特徴的な取組及びその意義について教えてください。」



「学校の状況を踏まえまして、拠点施設では「日本語指導・教科学習の準備」、「児童生徒・保護者の相談対応等」、「教材などの収集・提供、指導法などについての研修・研究」の機能をトータル的に担います。具体的な取組と意義についてですが、日本語の初期指導、学校生活への適応指導といったプレクラスの機能によって、児童生徒がスムーズに学習活動に入れることや日本語指導が必要な児童生徒の在籍が集中している学校の負担軽減につながります。また、日常的な相談を受けることで、学校生活における不安を解消し、進路の事前相談などにも丁寧な情報提供が行えるようになります。さらに、この拠点施設において、日本語指導のノウハウを蓄積し、各学校へ周知していくことで、散在している地域の学校を支援することもできると考えています。」

中高一貫教育校としての横浜サイエンスフロンティア高校と南高校



「横浜サイエンスフロンティア高校附属中学校の学校説明会の開催状況と入学倍率の見込みについてお聞かせください。」



「学校説明会は市内4か所の会場で、延べ9回の説明会を実施し、合計で約3,000名の参加がありました。競争率の見込みですが、学校説明会に申込みがあった小学校6年生の数から、募集定員80名のところ約1,000名の志願者を見込み、12倍程度と考えています。」



「横浜サイエンスフロンティア高校の今年の大学進学状況と評価についてはいかがでしょう？」



「27年度の卒業生232名の進学状況は、大学174名、短期大学2名、専修学校1名、進学準備が55名となっています。特に、国立大学においては、現役で89名、既卒者と合わせて111名が合格しています。また、学校の特色となっている課題探究型の学習は、「高校生科学技術チャレンジ」などの科学技術コンテストで入賞者を出すなどの成果を上げ、その成果をもって難関大学と言われている大学の推薦入試等で合格者が出ていることから、開校のご期待に応えているものと考えます。」



「付属中学校の研修旅行先を国内とした理由についてお聞かせください。」



「横浜サイエンスフロンティア高校附属中学校での海外研修につきましては、高校の教員も含めてプロジェクトで検討を重ねてきました。そのプロジェクトでは、中学校段階では、国内の中高一貫教育校との交流活動を行うなど、国内におけるフィールドワークにより課題設定及び研究の基礎を身に付けさせることが重要であるという結論に至りました。また、保護者の負担も考慮する必要がありますので、現時点では国内研修を行うこととしています。今後、子どもたちの学習状況を見ながら、中高一貫教育6年間の計画の中で、海外研修を含め、検討してまいります。」2校の教育理念や教育目標が異なるため、志願者の適正を測る観点、それぞれの学校ごとに設定する必要があります。しかしながら、作問の効率化も大切なことですので、今後、しっかりと研究していきたいと考えています。」



「南高校附属中学校の施設見学会の参加者数を教えてください。」



「9月17日に開催された「学校施設見学会及び授業公開」には、小学生及び保護者を合わせて約2,800名の参加がありました。」



「南高校の学校説明会の参加者数及び昨年度との対比についてはいかがでしょう？」



「8月20日の高校の学校説明会には、中学生98名及び保護者101名、合計199名の参加がございました。昨年度参加者が74名ですので、約2.7倍となっています。」



「次年度の志願者確保に向けた対策はありますか？」



「次年度も一クラス募集を継続いたします。次年度に向けて、中学生や保護者を対象にした学校説明会では、学校の魅力を、高校から入学した生徒が直接説明することで、高校からの入学への不安が解消されるなど、参加者から好評を得ました。また、校長自らが中学校の校長を訪問し、南高校の魅力をしっかりと伝え、高校から入学した生徒の様子を正確に伝えていきます。今後も引き続き、高校から入学する生徒の不安の払拭や南高校の魅力のPRを行うとともに、附属中学校から進学した生徒と高校から入学した生徒が、お互いに切磋琢磨し、より成長させる取組の検討をすすめてまいります。」

将来を見すえた学校施設の建替え



「建替えを進めるにあたっての視点とその効果についての見解をお聞かせください。」



「現行の施設整備水準を大きく下回る学校や、施設面で学校運営に支障のある学校は、建替えを行うことで、学校運営の課題解決を図ります。また、児童生徒の減少に伴う小規模校対策として、地域の状況をふまえて特色ある教育活動が展開できるよう、統合による建替えを検討し、教育環境の改善を進めます。さらに、地域のまちづくりやコミュニティの活性化を進めるために、学校の建替えに合わせて他の公共施設との複合化を検討していきます。」



「建替えを行うにあたっての課題認識と今後の取組についてはいかがでしょう？」



「横浜市は、本当にご承知のように膨大な量の公共施設を保有し、とりわけ人口急増期に集中的に整備してきた施設の老朽化というものが進行しているわけでございます。その中でも、学校施設は最も老朽化が進んでおりまして、一方で公共建築物の中に占める面積の割合というものも、最も大きくなっているわけでございます。教育環境の整備というのは、大変重要と考えております。常に安全・安心という状況にも取り組まなければなりませんので、そういう意味では効率的・効果的な保全の更新のため、財政状況は厳しいわけですが、建替えの基本方針の策定を進めていく必要があると考えております。さらに、財政健全性を維持するという観点からも、建替え経費の効率化や平準化をはかり、一方、必要な財源を確保するために、国に対しまして学校施設建替えの補助率を上げるよう、積極的に要望することなどに取り組んでまいりたいと思います。」



「学校のトイレが和式で困っている！」

そんな声を多く耳にして、実際に学校の現場を視察し、今回の決算特別委員会の局別審査で岡田教育長と一問一答をした結果、早急に和式トイレから洋式トイレへ改修する旨の回答を頂き嬉しく思っています。男性目線ではなかなか気付きにくい所を女性目線で丁寧に確かめ、しっかりと予算確保していきたいと思っておりますので、これからも様々な声をお聞かせください。